

分野の単位の設定並びに分野の選定についての基本的な考え方 (案)

○基本的な留意事項

教育プログラムは、学問の発展や社会のニーズの変化に対応して、常に分野の生成改廃を続けていくものであり、伝統的な学問分野の区分に当てはまらないようなプログラムについても、それらの存在はポジティブな可能性をはらむものとして尊重されねばならないこと

○分野の単位の設定

「分野」として設定される「単位」は、分野としての「実質」を備えており、過度に広範囲でなく、かつまた過度に細分化されていないこと

- 1) 固有の学問分野として一定程度完結しており、かつまた学士課程教育において、独立して系統的な教育プログラムを実施する意義を有するもの
- 2) 固有の専門職業に密接に結びついており、かつまた学士課程教育において、独立して系統的な教育プログラムを実施する意義を有するもの
- 3) 複合的・学際的な分野については、基本的には、複数のもとの分野の組み合わせとして考えるものであるが、既に実質的に一つの分野として認知され、それに対応して系統的な教育プログラムを実施する意義を有する場合に、分野として選定する可能性を否定しない。

※ 複合的・学際的なプログラムや非伝統的なプログラムにおいては、「分野」という枠組みにとられないことで、固有の教育研究上の意義を発揮している場合も少なくないので、そうしたプログラムを採用している組織に画一性を強いたり、多様性や柔軟性を損なったりしないような配慮が必要であること

たとえば、そうしたプログラムを採用している組織が、選定された諸分野の各要素を組み合わせでプログラムに独自の体系性を作り出すこと、あるいは、選定された諸分野の各要素とは異なる独自の体系性を工夫したりすることは、奨励されるべきであること

○分野の選定

分野は相当の数が存在すると予想され、すべてを取り上げることは困難であると思われることから、当該分野を履修している学生の数等も参照して、一定数（単年度では10～15分野程度）のものを選定すること

※ 当然のことながら、選定されなかった分野について、そのことを以て否定的に見なされるべきものでないことについては特に明確にする必要があること

※ 課題別委員会の審議期間終了後においても、追加や見直しが行われ得る仕組みについて検討しておく必要があること